



江戸川区の今をお届けする、区議会議員・上田令子発
インフォマーシャル・フリーペーパーです。

アール&アール第9号 2011年1月1日発行 発行人:上田令子

<http://www.ueda-reiko.com>

みんなの党
みんなの党

vol. 9

★ INFORMATION

「みんなの党江戸川」へ 会派名が変わりました!



「スリムな行政」をめざすアジェンダに共鳴し、上田令子は参議院議員選挙直前にみんなの党に入党。

会派名が変更となりました。これまで以上に力を得て活躍させていただきます!

★ INFORMATION

新春区政報告&おしゃべりサロン

上田令子と 大いに語る会

区政への素朴なギモンからワクワクする提案までお姐と一緒に語らしましょう!

日時:平成23年2月6日(日)

14:00~16:00

会場:タワーホール船堀2F「平安の間」

会費:5000円(飲食付)

お申し込み:メール・電話・FAXにて

生産緑地に消えた数千万円!?

—不動産を巡る不可思議なお金の流れに迫る—

農地として使うことを条件に固定資産税が軽減される(課税標準額1㎡につき7~8万円のところ220円)「生産緑地」の指定を江戸川区から受けながら、実際には耕作されていない土地があることを、2010年11月30日の第4回定例会一般質問にて上田令子が明らかにし、朝日新聞に取り上げられました。

生産緑地とは、「現に農業が行われている農地や採草放牧地、現に林業が行われている森林をいう」(生産緑地法より抜粋)とされています。しかし、「とてもそうは見えない農地がある」と地域住民から連絡を受けたのです。(中面へ続く→)

東京 東部 14版 © 2010年(平成22年)12月1日

朝日新聞 2010.12.1

北北東 中
八王子
北 波 0.5m
月 2日
0月27日)
6.32
16.28
2.31
13.36

生産緑地未耕作
農業再開指導へ
江戸川区が男性1人に
農地として使うことを条件
に固定資産税が軽減される生
産緑地の指定を江戸川区から
受けながら、実際には耕作さ
れていない土地があることが
30日、同区議会の一般質問で
明らかにされた。

区によると、問題とされた
のは区内の男性が2カ所に所
有する計約3千平方メートルの農
地。男性は「ハナミズキなど
の木を植えて販売するつもり
だったが、人手が足りず管理
できなくなった」と説明して
いるという。区は昨年も男性
に注意しており、今後、農業
を再開するよう強く指導して
いくとしている。

生産緑地は、都市部の緑地
保全を目的に市区町村から指
定を受けた農地。農業を30年
間続けることなどを条件に固
定資産税が軽減される。江戸
川区の場合、1平方メートル
7万~8万円の課税標準額が
220円に引き下げられる。

上田令子の本会議質問が
新聞報道されました!!



【上田令子プロフィール】

65年台東区上野生。台東区立黒門小、文京六中、都立三田、白百合女子大卒。外資系生保等を経て起業。結婚を機に江戸川区民に。99年子育て支援団体江戸川ワークママ設立。内閣府・経産省・都・区の各種委員を歴任。07年区議会議員選挙6位当選。日々頼まれもしない世直しに奔走中!

【家族】義父母、夫、小中学生の息子二人 【信条】あなたを助けることはできないかもしれないけれど、あなたが自分で自分を助けるお手伝いをします。 【好物】茶碗蒸し、リーフパイ、えび、グリーンアスパラの頭 【趣味】表千家茶道、火中の栗拾い 【通称】お姐! **workmom**

世のため人のためいつでも東奔西走! 必見! 上田令子の日々がわかるブログ
<http://blog.livedoor.jp/edomam/>

「お姐が行く!」

お姐が行く! 検索

管理適正ではない 区長が非を認める

(1面から続く) 百聞は一見にしかず。現地に足を運んで調査し、議場に右欄の写真を持ち込んで質したところ、生産緑地地区の適正管理ができていなかったことにつき、多田正見区長は明確に非を認めました。当選以来、様々な指摘をしてきましたが、区が率直に自らの落ち度を認めたのは初めてのことです。



本会議で熱弁を振るう姿。「スーパー堤防にも反対してます！」

小岩図書館新設用地を 同一所有者から5億で購入

また、2009年、江戸川区は小岩図書館新設のため約5.4億円で不動産を購入しているのですが、その地権者と今回の当該農地の所有者が同一であることが調査の過程で判明しました。

地域に古くからなじんだ場所にあり、便利な現在の小岩図書館はリニューアルすれば十分使えるはずなのに、なぜ新たに土地を購入するのか、当初から不審に思っていました。そのため、2009年6月の第2回定例会に上程された小岩図書館移転新築議案に、「建設費を含め9億円もの投資をする余力は江戸川区にない」とことと、「不動産購入にあたり、同日付で処理されるべき売買契約と所有権移転に、1カ月もの猶予があった手続き上の不備」を理由に、私一人だけが反対をしていました。まさか、小岩図書館案件と今回の騒動がつながるとは思ってなかったのでビックリ仰天したわけです。不動産を取り巻く江戸川区の怪しい点と点がつながり、

生産緑地 とは…

現に農業が行われている農地や採草放牧地、現に林業が行われている森林をいう(生産緑地法より抜粋)



耕作放棄をした江戸川区内の農地。生産緑地法第6条で定められている看板も設置されていません。



本来の生産緑地区。看板も設置され精力的に耕作をしていることが見て取れます。

(写真は背景を一部加工しています)

線が浮き上がってきました。

特定の個人から土地を5億で購入した上、同じ個人が所有する本来宅地並み課税をするべき土地に農地並み課税を施し、平成4年の生産緑地地区指定以来、約20年もの間徴税を見逃してきたとあれば、江戸川区の責任は甚大です。近隣の方々が不思議に思い、連絡を下さったのも当然でしょう。

知ったからには動く!それがお姐こと上田令子です。

今後も追及の手をゆるめずに、まだまだ見つからない「点」も掘り起こしてまいります。こうした議員がこの江戸川区にいるということをぜひお忘れなく、今後も引き続き応援のほどよろしくお願い申し上げます。

究極の雇用対策は、 天才を放っておくこと。

「大卒就職率が60・8%に!」。
先頃出された文科省調査結果を見て、お姐は驚愕しました。理由その1、就職率が90%近かった88年当時バブル入社のお姐とのあまりの違い。その2は、我が愚息お姐1号君もボンヤリ就職が見え隠れするお年頃、ヒトゴトでないというカーチャンとしての焦燥感からでした。

総理大臣いわく「やるべきことは「に雇用」「に雇用」とのことですが、仕事は天から降ってくるものでも、本来役所で作るものでもございません。「士農工商」の「商人」部門が活性化してこそ創りだせるもの。景気がいいと、恋と合コンしかなかったおバカ女子大生(お姐のコトですね、ハイ)でも就職ができるわけです。落第生でも上司にしろかれ、お客様に叱られ、社会でもまれるうちに、自然と生きる術を身につけていくものです。資格の勉強もいーけど、経験から言って実地で学ぶほど良い訓練って他にないんです! こういう「人生の丁稚奉公期間」がない若者が仕事もなく巷に溢れるのは、本人はもとより、国にとっても地域に

とってもよろしいことではありません。

ではどうやって、優等生から落第生までなんとかオマンマにありつけるようにしたらいいのか。即答します。「将来変革を起こす起業家の卵、すなわち天才を放っておく」こと!

愛読の経済学入門書には「起業家は変化を起こす主体となり、経済成長の力ぎを握る。ある国に起業家以外のすべての成長可能性がそろっていても、革新を起こしリスクを取る起業家がいなければ、経済成長は遅れる」とあります。つまり、経済政策、セーフティネット等の制度がそろっていても最後のピース、つまり起業家という一人の人間がいないと、経済成長のパズルは完成しないってわけ。実際に、日本の起業率は、先進国中最低レベル(Globa! Entrepreneurship Monitor, OECD調査)です。すべてがそろっているのに、ただひとつそろわない1ピース。そこに、日本におけるパイオニア精神の欠如と人材不足を読み取ることができなのです。

政府もそれなりに危機感を持つ

ていて「ゆとり教育」が2011年から見直されます。お姐2号君は今から「教科書が厚くなって、ランドセルに入らなくなったたらどうしよう」と頭を抱えています。母としては、厚くなる教科書の中身に戦々恐々としてもらいたいものですが、そんな憎めない2号君も車のこととなると誰よりも集中力と根気を発揮します。ある先生が彼にくれたお手紙をご紹介します。

「車博士の2号君。ひとつのことを極め、詳しく覚えるってとてもいいことです。車好きから世界が広がるんですよ」

もしかしたら、いまだかつてない、「生ゴミを燃料にするスーパーカー」を発明するかもしれません…。

今すぐにも、タダでできること。それは「天才を放つ」と文化を作ることです。

未来の起業家が生まれてきたら、園庭で、教室で、職場で、その才能をやつかみ袋叩きにするのではなく、持つて生まれた大きな翼を思う存分広げて飛べるような環境を作ってあげること。大きなことじゃない、手紙をくれたあの先生のようなやさやかなことで、人は自信を持ち、前へ進めるのです。それができないのなら、せめて邪魔をしない、いじめ



飛ぶ力があるのです。

そうそう! 世界各国の高校生らがコンピュータープログラムの作成を競う「第22回国際情報オリンピック」(2010年開催)で、日本の高校生2人が金メダルを獲得しました。

未来の起業家になれる彼らのような存在があなたの街に、クラスに、職場に、そして意外や意外!! 家族にいるのかもしれないヨ! と思っけないと子育てなんて、やってられない!!



政府が新成長戦略の中でしきりとうたう「イノベーション(変革)」は、お上のいらぬお節介。今やらなきゃならないことは、一人ひとりの起業家こそが「イノベーション」そのものだで自覚すること。センスのない役所や国が音頭を取らなくても、環境さえ整えば民間にいる天才が勝手にやりはじめるのですから。まさに「Not your business!!」

Bravo!! 仕事人 ブラボー!

江戸川区に貢献する
ブラボーな区民をお姐が紹介!

【第8回】チェンバロ奏者・高橋 尚子さん (船堀在住)

汽車に揺られて… バロックの世界に

出身は新潟県旧亀田町。6歳でピアノを始め、汽車に揺られて新潟市までレッスンに通いました。一人の女の子が指を動かしおさらいをしながら眺めていた車窓の風景。その先に見えてきたものは…。

住 み慣れたこの船堀にヨーロッパが出現する一角あり。流れてくるバッハの静謐な響きは、時空を超え、私たちを別世界へ誘ってくれます。「ここはどこ?」と何度も目をこすってしまう、チェンバロ奏者の高橋尚子さんと制作者の辰郎さんご夫妻のサロン「舟江齋」での、プライベートコンサートの風景です。

ハープシコードとも呼ばれるチェンバロは、ピアノのご先祖様くらいの認識でいましたが、弦を弾いて音を出す、むしろギターの仲間に近い、18世紀に全盛期を迎えた古楽器です。

尚子さんは上京し、東京音大付属高校を首席で卒業後、大学のピアノ科へ進学。しかし、すでに自分の世界を持ち始めていた尚子さんは、担当教授の指導に違和感を持ち、悩みます。そこへ、ドイツ・ザルツブルグに短期留学の話が急浮上。迷わず渡独し、かの国の弟子と師匠の風通し良い関係に感銘を受け、言葉の障壁を越えて当地の奨学金を獲得。ベルリンに長期滞在することになるのです。

苦 労の多い留学生活の中、息抜きに訪れたコンサートでチェンバロとの運命的な出会いを果たします。バロック世界への扉が大きく開いた瞬間。直感的に「チェンバロを弾きたい!」と飛び込みました。新潟のピアノ教室へ向かう汽車の終着駅は、ベルリンでバロックにつながっていたのです…いえいえ、まだ続くのです。

ドイツでも希少なチェンバロ奏者として活躍をしていた尚子さんですが、ふっと故国が恋しくなり日本でのコンサートに出演。そこでまたしても、チェンバロ制作者の辰郎さんと運命の出会いを果たすのです。

新 潟→東京→ザルツブルグ→ベルリン…遙かなるバロックの旅が、この江戸川区船堀に続いていたとは、なんて素敵なことでしょう!?

これからの夢は「人としてまっとうに生き、チェンバロを通じ死ぬまで自分の世界を追求すること。自分をどれだけ高められるか挑戦し続ける」ことだそう。

尚子さんは、お姐と同じく船堀に嫁いだ者のお約束(笑)、義父母さんと同居されました。洋行帰りのお嫁様は、厳冬のドイツで、たった一枚のチョコを買いにいく戦災未亡人の老いた後ろ姿を知っていました。だから「家族で暮らすのが一番」と、チェンバロを弾く手で洗濯物を干し、しっかりと船堀のおヨメもやり遂げ、そして地域に、コンサートを通じバロックの世界を還元してこられたのです。

尚子さんの凜とした美しさには、誰しも圧倒されることでしょう。それは、和して同ぜずという生き方そのもの。江戸川区の文化振興にも長年ご夫妻で貢献されてきました。舟江齋サロンコンサートが100回目を迎えるのも、もう間もなくです。(コンサート情報はこちら→<http://www.cembalo.jp/top.html>)



高橋尚子さんから区政へひとこと

「区民が失望させられることがないように、責任の所在を常に明確にした区政を行っていただきたい」

バッハの世界のように厳粛で愛のある言葉を、議員であるお姐はもちろん議会も役所もしっかり受け止めねばなりません。芸術同様、行政もたゆまぬ研鑽が不可欠!しかし、バッハを聴くと、マスール(≡シスター)にお小言をいただいていた学生時代を思い出し、反省しきりのお姐であります。